

(1) 第 5 期京田辺市障害福祉計画（第 1 期障害児福祉計画）策定に係るアンケート結果報告について

○質問・意見なし

(2) 第 5 期京田辺市障害福祉計画（第 1 期障害児福祉計画）素案について

【委員】数値の質問だが、32 ページの訪問デイサービスで重度訪問介護の人数がすごく増えているが、実際に重度で訪問介護が必要な方がこれだけおられるのか。一方で、人数が増えているわりには時間が増えていない。どういう根拠で出されたのか。

(事務局) 人数は、今までの実績と担当で把握しているものを挙げている。時間は、利用できる事業所が十分でないことも理由の一つである。

【委員】数値は増加していくという傾向で作る必要があるのか。減る部分もあると思う。就労継続 A 型もどういう形で進めるのか。就労系や日中系は減ると実績が到達していないようだが、反対に一般就労しているということになる。数値の見立てをどうするか。障がいや発達障がいのある子どもたちが増えている。うちの事業所の場合、契約上、3 歳から 22 歳が 250 名いる。子どもは大きくなると日中系を使い、その先には一般就労という道がある。どういう形で数値の見直しをするか。実績は減っているが、実際は一般就労していたり、居宅の利用者はいるが支援を使わずに 1 人暮らしが増えていることもある。国としては 1 人暮らしで地域で暮らしなさいということで、数値的にアンバランスに見えるかなと感じている。これだけ増えると事業所を増やさないといけなくなるのが今後の課題。

(事務局) 障害福祉サービスは、増えると良いというものではないと考える。担当としても数値を出す時に、これが正しいのか悩みながら出している。実際、数値を減らす形であげているところもあるが、別の事業に移行とか就労に行ったことで減っていると見込んでいる。目標の立て方は悩むところで、委員のみなさまがどのように考えるのかおうかがいしたい。

【委員】アンケートの件で、いろんな意見を抜粋してあるが、頻度というか、多い順番とか、今後の計画に生かすためには優先順位があると思うが、これだけだと多い意見が分からない。事務局できちんと捉えて分かっているのか。

(事務局) 一般的な、はい、いいえで答える調査でなく、記述式ということで文章で書いていただいた。意見として多かったものや 1 つの意見でも市として課題であるとか今後の取組としてつなげていく必要があるものを抜粋している。声が多いものだけをあげているわけではない。

【委員長】計画値は 3 年間決めると変わらないということだと思う。20 ページも 3 年間

計画値が変わっておらず、実施率が300%になっている。増えるのが前提で、減ると良いところとか、何かに移行されているところが計画書を見てるだけでは分からない。もし減らす数値がある場合、就労への移行が前提で減らしているという内容を数値だけでなく一筆入れられないのか。

(事務局) 20ページの障害児支援の実施率が300%となっている部分は、28年度に市外に事業所ができ、そこを利用する方が増えたため、当初の見込よりも増えている。児童発達支援の場合、子どもの育ちを支援するサービスで増えた方が良いと思う。就労への移行により数値が減るという部分については、就労のみでなく、引きこもりなど他の理由もあり、一概には言えない。居宅介護は使えば使うほど良いというものではなく、その方の自立支援の面から見ると、サービス量が増えていくのは適切ではない。そこも踏まえて設定する必要があると考える。

【委員】数値はすごく難しいと思うが、3年間計画値は変わらないということか。去年の実績を踏まえて変わるのが普通。変わらずここに載せるということは、こういう場合もあると載せてもらった方が良い。よく分かっている人には分かると思うが、素人なので。増えている数値と、もし減っている数値がある場合は、居宅の方が自立したとか働く人が減ったとか、米印とかで入れてもらえたら。これを読んで理解しようとする人もいる。増えているときは増えているんだと思うが、減っている分があると、何だろうと思う。注釈を入れてもらえると嬉しい。

【委員長】計画を数値化して一般化、具現化は難しい。個別対応のものをどのように具現化するのか。

【委員】財務省はいかに減らすかと考えている。そうなると、支給量を極端な話で言い方は悪いが、抑制せざるをえないことも出てくる。事業所としては担い手不足。平成30年に抜本的な見直しがあり、報酬単価も下がる。そこで福祉計画の数値を守れるのか。一般就労した方が上手くいくと良いが、実は引きこもっているとか。減ったから、増えたから良いではない。さきほど言われたように、ニュアンスみたいなものを書いておくと分かりやすい。計画があれば、計画に近づけようとするのが人間の本性。毎年の見直しもする。発達障がいや生きにくさを抱えた子どもたちが増えている。田辺は人口も増えているので、割合も増える。福祉サービスをどう担うのか。事業所をつぶすわけにはいかないのだから、数値をどういう見立てをしてどう見るのか。良い方法を考えていく必要がある。

【委員長】計画は今の計画に近い短期のものと中期的なものがある。今の施策や実態も変化が激しいので、計画の見直しや修正を短いスパンでやらないといけない。一度立てたらこれで行くというのは、いずれの政策も国の方でも議論はあったが、このごろは5年スパンで考えるのは無理。1年ないし2年を実態を踏まえながら見ていくことが当たり前になりつつある。微調整どころか抜本的な修正を短期間でやらないといけない。当事者の変化もだが、周辺関連施策の成熟や変化も深い影響を受ける。計画は方向や中身を決めるもので、かなり短期のスパンで見直しを常にやらないといけない。今までは一定期間置いてから達成度を評価していたが、

今は常に動きを見ておかないといけない時代。長いスパンの計画はあまり通用しない。法律上、一定の計画を立てておかないといけないので、その都度情勢の変化に応じた微調整などが余儀なくされているところ。

【委員】 18ページと33ページの短期入所のところで、29年度と32年度では数がかなり増えている。現在の施設や人で足りていくのか、今ある事業所や人数で数が増えても対応していけるのか。人手不足や担当者の質が上がっていかないと良いものにはならないところも踏まえて考えないといけないと思った。

【委員】 短期入所はニーズがあるので、事業所に連絡して対応しているのが現状。相談支援事業所としてもニーズが増えているので、増やしていかないといけないと思う。過疎地というか限界集落で、特養で肢体不自由の方の短期入所を受け入れているところがある。「富山型」で障がいを持った方と高齢者を合わせた施設を作り出している。厚労省でも「富山型」として取り上げており、そこを踏まえると増やしていける、増やしてほしい。

家に居る方が危険な子もいて、親子の関係などからも外に出してあげないと。精神疾患の方で母子を分けないといけないケースもある。今ある資源を増やすのではなく、足して足して点を線にして、増やしていかないといけないサービスである。

児童について、京田辺以南の事業所は旧山城町に1つとうちしかないなので、点を線にしていかないといけない。

【委員】 アンケートの結果で、福祉の担い手が減っているという話があったが、実際に福祉の現場に携わっていて、人手があればこんなサービスができるなど。単にサービスを増やす、こんなサービスが使えるようになっただけでは解決できない問題が人手不足だと思うので、計画にも人材育成が必要。サービスの質を上げるためには、人材育成である。福祉のサービスは、基本担い手の問題が大きいと思うので、計画にどう盛り込むのかを考えていかないといけないと感じている。

【委員長】 サービスは質を問われるので、人数がいれば良いというものではない。担い手がサービスの質を上げるためには、直接的には研修。いろいろな研修のあり方があるが、現場は人手不足なので研修の暇がなかなか確保できない。研修は、まさに日々の営みが研修になるというふうに踏み込めないと、施設外研修で職員が抜け出すというあり方には限界がある。医療の世界では、文字通り一挙手一投足が理論的であると同時に研修になっている。このごろは、実践イコールまさに研修だと認識して仕事をされている。実務と研修を選別するという考え方は変えないといけない。サービストレーニング、まさに日々の営みそのものから何を学ぶかが大事。職場を離れた研修も良いが、そこのリーダーや指導者がきちんとすれば、施設外研修や特別な場を作る必要がないという話を聞いた。

【委員】 商工会やハローワークとも相談が必要だが、来年4月から障害者雇用率が0.2%上がる。福祉の担い手だけでなく、京田辺の一般企業も人材不足であるので、うまくマッチングができれば良いと思う。精神疾患や肢体不自由の方で働きたい

方もいるので、短期間でもできないか。また、ハローワークの助成金が使えるというような話ができれば、京田辺がもっと活性化するのではないか。このような場で顔を合わしているが、現場では会わない。子どもの親はほとんど働かせたいと思っている中で、どうやって働くのか、どこに行くのか。生活保護費も増大している中で、障がいのある子どもたちがどうやって納税者になって行くのかもここで論議できればと思う。働く場としての居場所作りにもなる。数値だけではなく、京田辺はどうしていくのかを話していかないといけない。福祉側としては、一般就労してほしい。企業の中にはどこに障がいのある方がいるのかと言われることもあるので、どういうつなぎ方ができるのか、福祉計画の中で載せる話ではないかも知れないが、しっかり話がしていければと思う。

【委員】確かに人手不足で悩んでいる。委員会の話とつなげるには知識が不足している。勉強会などで意識付けが大事だと思う。障害者雇用の知識がなかったので、ここで勉強させてもらい、今後、つなげられたらと思う。

【委員】福祉の世界にいたので専門用語を使っているが、移行やB、Aと言われても分からないと思うが、委員会で座っていても分からないのでは困る。かみ砕いた話をしてつないでいかないといけない。絵に描いた餅では困る。数値だけを見ない、数値の背景があるということを踏まえたうえでの計画にしていかないと。困っている方々を救うのは、我々の手にかかっている。次回、最終案ができた時に話したい。

【委員長】福祉就労、一般就労という分け方が無理な時代で、統合化を図っていかないといけない。就労のあり方、働き方問題として、障害者就労の話が出るのはおかしい。我々の立場から就労のあり方を変える発言をしていかないと進まない。受け入れる側の変化が必要である。計画を立てていく役割として、新たな理念も組み入れていかないと、すぐにできるかは別として提案をしていく必要がある。